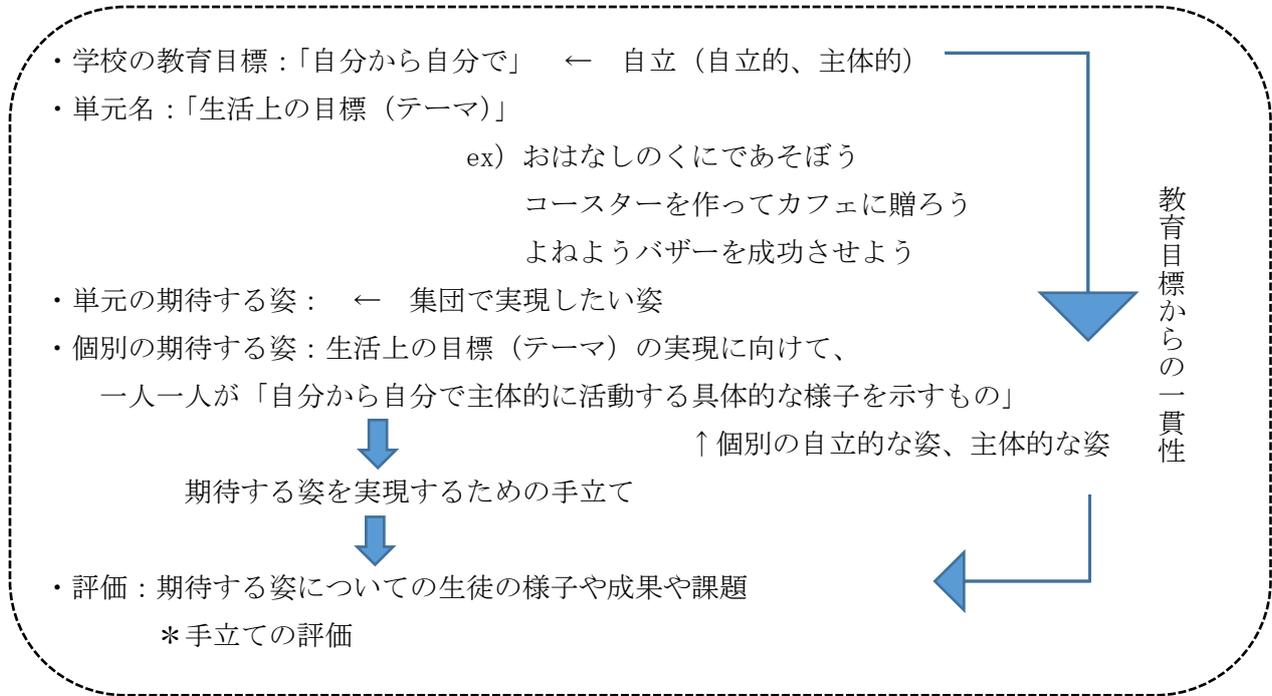


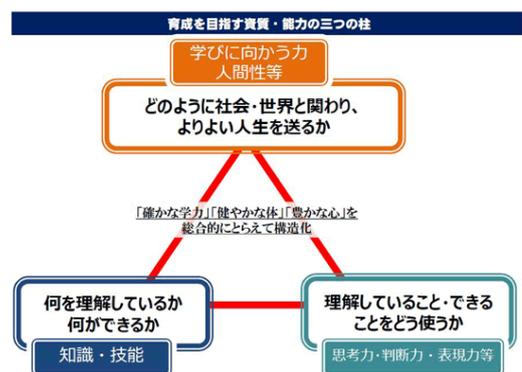
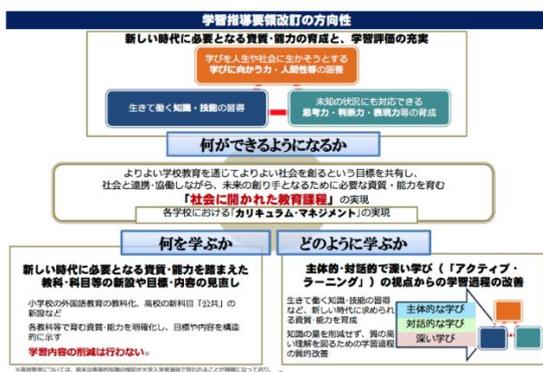
「期待する姿」と「育成を目指す資質・能力」「観点別評価」について

1 これまでの米養の「期待する姿」から評価までの流れ



2 育成を目指す資質・能力と観点別評価について

(1) 育成を目指す資質・能力



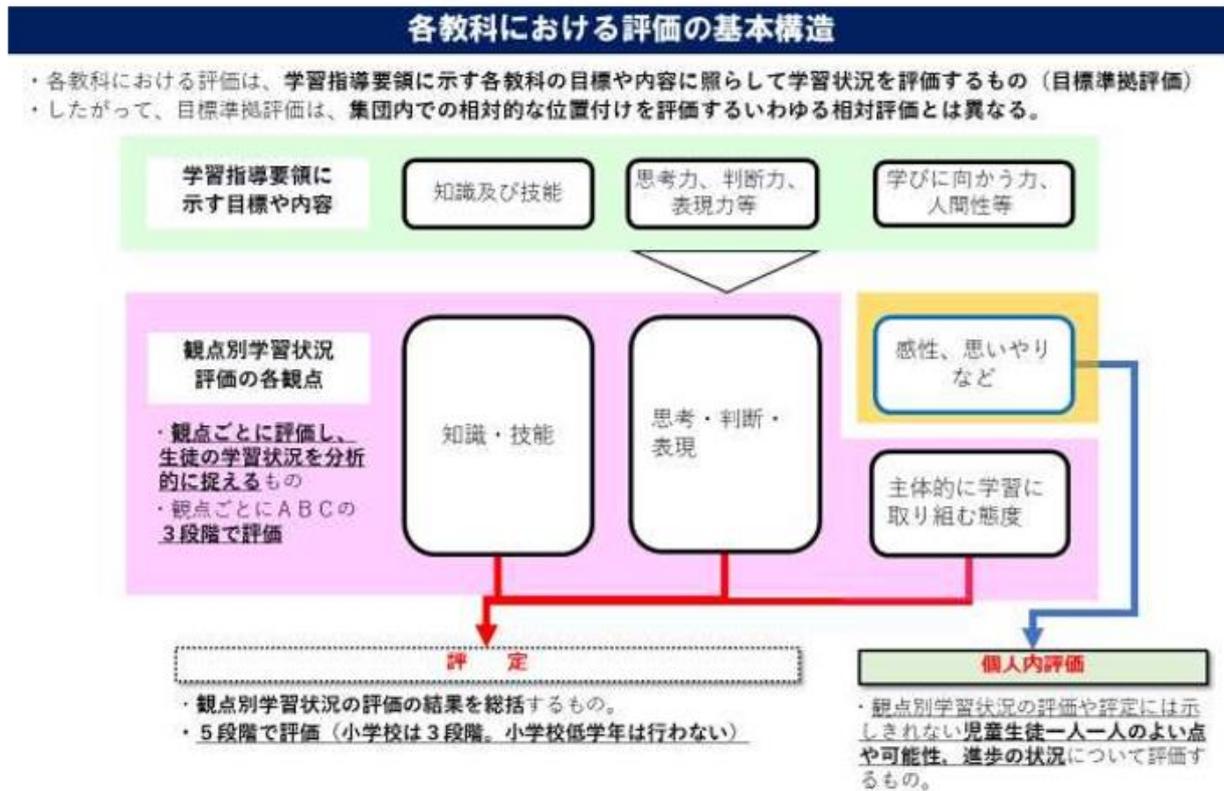
出典：文部科学省

(共同研究者：名古屋先生)

・知的障害教育の授業づくりでは、学習活動を実生活化することで、各教科等の内容が社会的文脈から切り離されることなく実際に展開される（中略）これら学習活動の実生活化によって保証される教育内容の質は、自ずと育成を目指す資質・能力の三つの柱を自然な形で担保する。

- ・学習活動を単元化することで、育成を目指す資質・能力の三つの柱に即した確かな学びが実現できる。

(2) 観点別評価



※この図は、現行の取扱いに「答申」の指摘や新しい学習指導要領の趣旨を踏まえて作成したものである。

- ・知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科においても、文章による記述という考え方を維持しつつ、観点別の学習状況を踏まえた評価を取り入れることとする。
- ・障害のある児童生徒について、個別の指導計画に基づく評価等が行われる場合があることを踏まえ、こうした評価等と指導要録との関係を整理することにより、指導に関する記録を大幅に簡素化し、学習評価の結果を学習や指導の改善につなげることに重点を置くこととする。

出典：文科省（児童生徒の学習評価の在り方（報告）より）

（共同研究者：名古屋先生）

- ・三観点を別々に捉えるのではなく、「各教科等を合わせた指導」本来の目標達成状況を先に把握し、その内容を観点別に評価するということ。観点は観点であり、本来の目標の達成状況を多面的に見ていくもの。
- ・観点別評価＝育成を目指す資質・能力を育成する授業



(1) (2) を踏まえて、授業づくりを行う

3 育成を目指す資質・能力を踏まえた授業に向けて

<よねようとしての考え方>

児童生徒一人一人が適切な支援を受けながら「自分から自分で主体的に活動」することで、

- ① 何ができるようになるのか。
- ② 何ができるようになったのか。

期待する姿が実現するとき、何ができるようになるのか、何ができるようになったのか

より細やかに、分析的・総合的に子ども一人一人の育ちを考えてみる



テーマ実現の中で育成を目指す資質・能力

- ・知識・技能
- ・思考・判断・表現
- ・主体的に学習に取り組む態度